

(11) 九州



九州地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

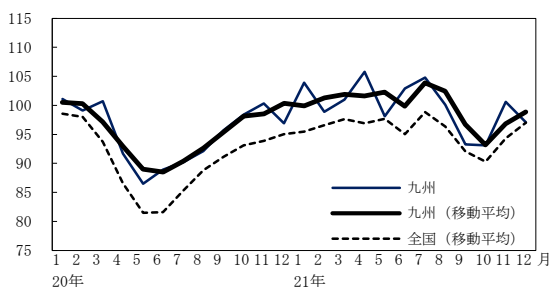
	前回（令和3年12月）	今回（令和4年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、 <u>持ち直しに足踏みがみられる</u>	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ <u>持ち直しに足踏みがみられる</u>	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は <u>緩やかに持ち直している</u>	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、汎用・生産用・業務用機械は半導体製造装置等が減少したこと、輸送機械は普通乗用車等が減少したこと等により、前期比2.5%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	13.6	1.9	10.7	4.0	17.4	▲3.3
輸送機械	13.5	▲23.1	▲13.7	10.1	23.7	0.5
食料品	12.2	▲0.2	▲0.6	0.0	1.0	▲0.3
汎用・生産用・業務用機械	12.2	9.7	▲14.5	▲12.8	14.4	▲16.7
化学・石油石炭製品	10.0	2.5	2.1	▲2.4	1.2	▲1.9
鉱工業	100.0	▲2.8	▲2.5	▲0.2	8.1	▲3.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10-12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.2%増となった。月別にみると、10月は前月比3.4%増、11月は同0.3%増、12月は同0.3%増となった。

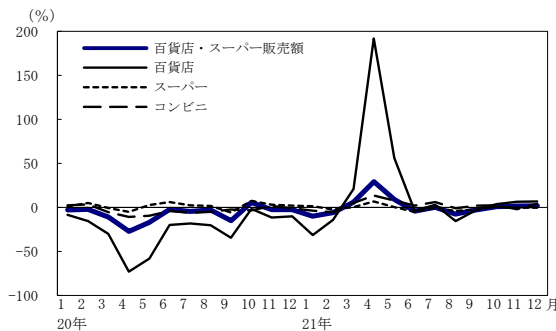
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比1.5%増となった。月別にみると、10月は前年同月比0.9%増、11月は同1.6%増、12月は同1.8%増となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比5.8%増となった。

スーパーは、10-12月期は同0.0%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	3.2	3.4	0.3	0.3
百貨店・スーパー(*2)	1.5	0.9	1.6	1.8
百貨店(*3)	5.8	3.6	6.4	6.9
スーパー(*3)	▲0.0	0.7	▲0.2	▲0.5
コンビニ(*3)	1.5	2.5	▲1.9	3.9
乗用車(*4)	▲20.4	▲33.3	▲15.0	▲12.4
(季節調整値) (*4)	0.9	11.5	18.0	5.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

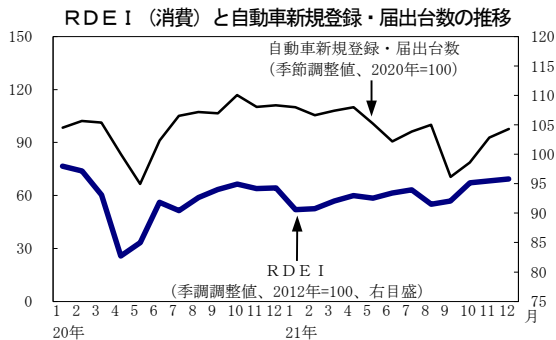
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

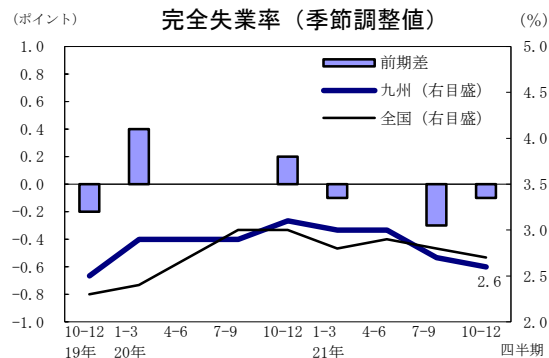
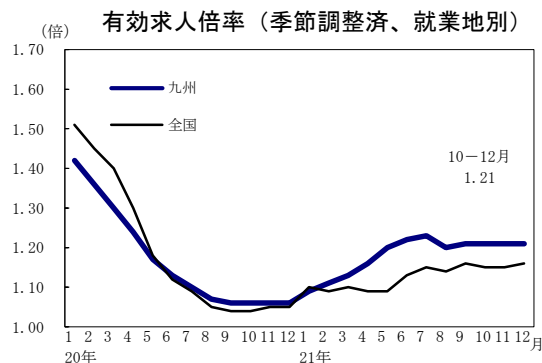
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年1月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
		判断の理由	判断の理由
現状	家計 動向 関連	▲	・買上点数の減少や買上単価の下落がみられる。様々な値上げにより生活防衛意識が働いており、現場でもその声を聞く機会が増えている (家電量販店)。
		×	・まん延防止等重点措置が適用された地域への来訪自粛や既存予約の取消しが著しく増加している。新規予約も停滞気味である (旅行代理店)。
		□	・年末年始は帰省客が前年より多く、営業成果の指標となる数値が上昇し、従来の景気に戻りつつあったが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大で状況がまた一変しており、景気自体はさほど変化がない (スーパー)。
	企業 動向 関連	□	・3か月前と比較すると大きな変動はないが、1月に入り新型コロナウイルスの感染拡大により、業種によっては景気が低迷している取引先もある (その他サービス業 [物品リース])。
		▲	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響が急速に拡大している (通信業)。
		○	・半導体関連の受注量と販売量が継続して好調である (電気機械器具製造業)。
	雇用 関連	□	・前年はこの時期の求人数がかなり少なく、希望者に対して十分な求人がなかったが、今年の求人自体は、継続してある状況である。しかし、学生とのマッチングの視点でいうと必ずしもうまくいっておらず、どちらともいえない状況である (民間職業紹介機関)。
		○	・注文数が2割程度増加している。既存の客の注文に加え、新規企業からも注文が入っている。また、採用が決まったことで登録をやめる派遣登録予約者が、前月よりも目立つ (人材派遣会社)。
		▲	・新型コロナウイルス第6波における急激な感染拡大の影響により、休業や時短営業をする飲食店が急増している。補助金や雇用調整助成金等がいつまでも続く状況ではないこともあり、今後の景気に影響する (新聞社 [求人広告])。
	その他の特徴 コメント		▲：主力原料の不作と品質不良により、製品を十分に供給できず、加えて原価が高騰している (食料品製造業)。 ×：新型コロナウイルスの感染拡大によって、飲食店は時短営業や休業をしているため、景気は悪い (その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売])。
先行き	家計 動向 関連	□	・ワクチン接種の動きはあるものの、新型コロナウイルス感染拡大第6波の先行きが分からないため、見通しが立てられない (観光名所)。
		▲	・まん延防止等重点措置が解除されるまでは人の動きは少なくなる。また、新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数が更に増加した場合、再度緊急事態宣言が発出されれば、当面景気の回復は見込めない (コンビニ)。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルスに起因する影響が多く、経済の回復はまだまだ見通せない (輸送業)。
		▲	・半導体やハーネス等の部品供給減少の影響で、生産台数が減少する (輸送用機械器具製造業)。
	雇用 関連	□	・求人数は増加しているが、求職者の動きが鈍く、求人数が滞留している状況である。賃金の底上げが重要になるが、派遣先の承諾次第である (人材派遣会社)。
	その他の特徴 コメント		○：新規感染者数の山場が過ぎれば、春になり気候も良くなっているため、景気は持ち直してくると期待をしている (商店街)。 ×：まん延防止等重点措置が2月20日まで続けば、3月までの予約に影響が出てくる。また、例年4月は売上が低いため、景気低迷が継続する (都市型ホテル)。

(D I) 現状・先行き判断D I (九州) の推移 (季節調整値)

